

♪♪♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2016年3月 ♪♪♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

やっと少しずつ春めいてきましたね！3月、そして4月も宗次ホールでは30公演、春にちなんだクラシック曲を集めたランチタイムコンサートや、桜の映像を楽しみながらの映像付コンサート(3/20)など、春を満喫できる公演を多くご用意して皆様をお待ちしております！

(文責:宗次ホール企画担当 廣田政子)

過去最高レベルの大会、上位3名による 第5回宗次エンジェルヴァイオリンコンクール 受賞者(楽器貸与者)ガラ・コンサート

3月26日(土)15:00開演 3,000円(学生1,800円)[自由]



2年に一度、世界中から若手ヴァイオリニストがここ宗次ホールに集い、腕を競い合う『宗次エンジェルヴァイオリンコンクール』。2015年3月に開催された第5回目の大会は過去最高レベルとなり、録音審査に通過した7か国50名が出場しました。今月はその大会を勝ち抜いた上位3名による受賞者記念コンサートです！入賞した演奏者には今後さらなる研鑽と努力を喚起すべく、2年に渡ってヴァイオリンの名器が無償で貸与されています。

満席のお客様に見守られて1位に輝いたフランシスコ・フラナさん(写真左)はストラディヴァリウス“レインヴィル”(1697年製)を手にし、今回はその楽器が最も美しく鳴ってくれる選曲で聴かせてくれます。この楽器についてフラナさんは、「職人の技です。ピカソやミロ、ゴヤ等の天才画家がいたように、ガルネリやストラディヴァリウスも天才」と語っています。楽器が年月を重ねてたくさん弾かれ、熟成されることで素晴らしい音を出す、と。300年以上前の楽器を演奏することは、まるで初めてヴァイオリンに触れるような感覚だそう。

フラナさんに続いて2位に輝いた松岡井菜(せいな)さん(1764年製:M.ベルゴンツィ)、第3位イ・ユジンさん(1697年製:G.F.プレッセンダ)もそれぞれ名器を携えて、この1年間で更に磨きかけた腕前を披露してくださいませ！これから更なる飛躍が期待される若手3人です。今月はコンクールの感想や選曲の理由、プログラムの聴きどころなどについてインタビューした記事も同封しておりますのでそちらもお楽しみください。



ヴァイオリンの持つ真にまろやかな音色を引き出すことができる芸術家、(一般的にヴァイオリンの)よく耳にする鼻にかかったような荒い音とは無縁の芳醇な音」と大絶賛されています。その音は“ヴァイオリン”という楽器を忘れさせる程の“リリシズム(抒情性)”。アルメニア人のお父様はバリトン歌手だったそうで、歌を通してコミュニケーションを図るという父の姿勢は、彼女にも大きな影響を与えたそうです。そんな稀有な演奏家、カシュカシアンさんと共演するピアニスト、アウエルバッハさんもまたすごい方です。作曲家としてその作品はクレメール、ヒラリー・ハーン、東京クワルテットなどに演奏され、またピアニストとしても世界中で活躍をし、さらにその才能は音楽だけに留まらず、詩人、彫刻家…としても活躍されている、正に芸術のために生まれた人です。今回はアウエルバッハさんの作品、「アルカナム」(ヴァイオリンとピアノのためのソナタ)も演奏されます。その性格も正に芸術家。今月はそのアーティスト的なお人柄がよくわかる読み物もあります！かなり、おもしろい記事です。読んでみてください。きっと、生でその音楽に触れてみたくなるはずですよ。

ピアノという楽器を用いた新たな芸術 ジョルジュ・ブルーデルマッハー ピアノリサイタル

4月5日(火)19:00開演 3,000円(学生1,800円)[指定]



© C. Chamourat

切実なチラシが同封されているかと思いますが、本当です。こんな素晴らしい演奏家の公演をこのお値段で開催できるのは滅多にないことです。わずか11歳でパリ国立高等音楽院に入学、これまでの共演者も、ゲオルク・ショルティや先月に惜しまれつつ他界したピエール・ブレーズなど、錚々たる顔ぶれです。

ピアニスト・青柳いづみこさんも、「恣意的なくずし方はせず、端正なスタイルで弾いているのに、ふとした“間”リズムのゆらぎがたとえようもなく魅力的」と彼の演奏について語っています。ラヴェルの弟子、ジャック・フェヴリエに師事したブルーデルマッハーさん、この日のプログラムにはラヴェル「夜のガスパール」も含まれており、その解釈に大注目です。そしてピアノソナタ全曲録音で高く評価されているベートーヴェンからは最後のピアノソナタ、第32番。ブラームスの巨大な変奏曲、さらに最後にプロコフィエフの「戦争ソナタ」、すごいプログラムです。ドイツ、フランス、ロシアとそれぞれ異なる国からの、ピアノ史の中でも特に大作を取

二人の鬼才による日本初共演！

グラミー賞受賞ヴァイオリン奏者と、超一流ピアニスト・作曲家

キム・カシュカシアン ヴィオラ

レーラ・アウエルバッハ ピアノ

4月2日(土)18:00開演 5,000円(学生3,000円)[指定]

ここからはちょっと先取りして4月前半のおすすめリサイタルのお知らせです。カシュカシアンさん…2012年にはクルタークとリゲティ作品のアルバムでグラミー賞を受賞、現代屈指のヴァイオリン奏者です。グラモフォンのウェブサイトでは、「カシュカシアンは

り上げた贅沢な選曲です。

作品と対峙するとき、作曲家本人がどんなテクニックを用いたか、それをどう作品に表したか、そして現代の私たちがそれをどう理解すべきか、ということ作曲家の伝記や残された手紙、弟子達による文章まで調べ上げて研究され、「ピアノという楽器を用いて新たな芸術を生み出したい」と話されるブルーデルマッハーさん。青柳いづみさんもその演奏を聴いて、「アルド・チッコリーニ(2015年2月逝去)を失って意気阻喪していたけれど、世界にはまだまだ光輝くピアニストが目白押しだ！」と評するほど。名古屋で、しかも3000円で、聴けるまたとないチャンスです。どうぞ、お気に入りのお席をお早めにご予約ください！

お得なスイーツタイムコンサート！

(料金・時間は一律です)

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたいなあという方、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたいなあという方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手までが登場。みな2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家たちです。ご期待下さい！

2台ピアノ、連弾、ソロ、全てあり♪

3月13日(日) モーツァルトのオペラと

ショパンの名曲

佐藤 勝重・根津 理恵子 ピアノ



ピアノといえばショパン、という方も多いかと思いますが、モーツァルトも、ショパンに大きな影響を与えた作曲家のひとりです。両者とも即興演奏の名手であり、ショパンはモーツァルトのオペラをこよなく愛していました。ショパン作品の伸びやかで美しい歌い方や滑らかなレガートは、ショパンが愛したモーツァルトのオペラの影響もあるようです。ピアニストの佐藤さんと根津さんはそれぞれパリ、ポーランドで研鑽を積み、公私共に息の合ったパートナーです♪ 根津さんは2005年、第15回ショパン国際ピアノコンクールにおいてファイナリスト名誉表彰を授与され、ヨーロッパ各地のショパン・フェスティバルにも招聘される、ショパンのエキスパート。

プログラムはモーツァルトのオペラ「魔笛」序曲に始まり、ショパンがモーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」より“お手をどうぞ”の主題を用いて作曲した変奏曲、(この作品は当時からドイツで最も権威があり、今尚刊行されている音楽雑誌『新音楽時報』で1831年シューマンから「諸君！天才だ！」と大絶賛されました。ショパンわずか17歳の時の作品です。)そしてお馴染みのアンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ、華やかな2台ピアノのためのロンド、と続きます。二人の息のあった連弾、2台ピアノ、ソロまで、さまざまな編成が楽しめるのも魅力。

二人の作曲家による「歌×詩(うた)」のこころをお得なスイーツタイムコンサートで、日曜日の優雅なお昼にどうぞお楽しみください。

至福の時をもたらす、アルゼンチンが誇る名手 3月21日(月・祝)レオナルド・ブラーボ ギターコンサート



『現代ギター』に2012年より南米の音楽について連載を執筆され、2015年12月には同誌の表紙も飾り、インタビューも掲載されたブラーボさん。映画や数々のTV番組にて楽曲提供や演奏で活躍されるバンドネオン奏者・小松亮太さんとも共演を重ねています。そんなブラーボさんが9年ぶりに宗次ホールに戻ってきてくださいます！宗次ホールの響きを大変気に入ってくださり、とても気持ちよく演奏したことをよく覚えています、とブログにも書き綴ってくださっているほどです。今回もピアノソナなど、アルゼンチン他、中南米の作品を集めて、その魅惑の音を聴かせてくれます。研ぎ澄まされた技術を持ちながらもそれを誇示することは決してなく、それでいてその音楽がもつ限りない生命感とぬくもりで聴衆を魔法にかけるかのようで、実際その演奏を聴きに行かれた方達からも「大人しい日本の聴衆には珍しく、“ブラーボ”の嵐がすごかった！」との声が。

2月号の『レコード芸術』ではタンゴ名曲集のCDが特選盤と推薦盤に選ばれたばかり。名演を生で聴く貴重な機会です。

グラミー賞ノミネート歌手と博物館級の楽器

4月3日(日) ジョン・エルウィス テノール

渡邊 順生 ラウテンクラヴィーア



4月のおすすめコンサートです！イギリスのみならず、ヨーロッパを代表する名テノールとして君臨し続けているエルウィスさんと、日本が生んだ歴史的鍵盤楽器の達人の一人、渡邊さんの名コンビによる貴重な演奏会です。ウェストミンスター大聖堂聖歌隊在籍中に作曲家ベンジャミン・ブリテンに見出され、共演や作品の献呈も受けているエルウィスさん。マーラーの「大地の歌」の録音では2008年にグラミー賞にノミネートされた実力の持ち主です。その声はとても艶やかで発音、高音、ヴィブラートの具合と全てがエレガントでいて堂々としています。またこの日登場する楽器「ラウテンクラヴィーア」ですが、“ラウテン”とはリュートのことだそうで、リュートとチェンバロが合体された楽器なのです。形はチェンバロですが、弦はチェンバロと違って金属ではなくガット弦(羊の腸が材料)を用い、そして共鳴板をはがした内部にはリュートの胴体をひっくり返した形のものが入っていて、金属弦より減衰の早い音色は、とても柔らかく魅惑的な響き。16世紀以来ヨーロッパ各地で製作され多くの作曲家たちを魅了したにも関わらず、最近まで現物が残っていないとされてきた“幻の楽器”。歴史に忘れられた幻の響きが300年の時を経て、ここ宗次ホールに甦ります。

エルウィスさんは教育の現場でも「言葉を味わいなさい」と何度も繰り返されます。ご自身も歌曲、オペラに関わらず徹底的に分析、研究を重ねて演奏なさっているそうで、その徹底ぶりには渡邊さんも驚くほどだそう。東京では4800円する公演が宗次ホールに2000円で登場！日曜日ですので、普段はお昼のコンサートに出かけられないという方、ご家族、ご友人もお誘いのうえ、ぜひお越しください♪